第9回『ひとのあかし』

若松丈太朗詩、アーサー・ビナード英訳



今回の本は「ひとのあかし」です。2012年1月初版。若松丈太朗詩、アーサー・ビナード英訳。

ひとのあかし〈2011年5月〉 みなみ風吹〈日1〈1992年11月〉 みなみ風吹〈日2〈2008年8月〉 神隠しされた街〈1994年8月〉

若松丈太朗氏の日本語の詩に対応して隣のページにアーサー・ビナード氏の英訳があり、次には齋藤さだむ氏の写真が配されている。

ひとのあかし(全文)

ひとは作物を栽培することを覚えた ひとは生きものを飼育することを覚えた 作物の栽培も 生きものの飼育も ひとがひとであることのあかしだ あるとき以後 耕作地があるのに作物を栽培できない 家畜がいるのに飼育できない 魚がいるのに漁ができない ということになったら ひとはひとであるとは言えない

のではないか

読んでみて「ああ、そういうことだったのか」と思った。原発だ。 2011年3月の東日本大震災で起きた福島での原発事故。 1986年4月のチェルノブイリの事故。

神隠しされた街(部分)

人びとの暮らしがひとつの都市からそっくり消えたのだ ラジオで避難警報があって 1,100 台のバスに乗って 45,000 人の人びとが 2 時間のあいだに消えた

人びとの暮らしが 地図の上からプリピャチ市が消えた チェルノブイリ事故発生 40 時間後のことである

しかし、チェルノブイリ事故よりもっと以前から福島県では花びらに斑点があらわれたり、頭髪や体毛がごっそり抜け落ちたり、様々な現象が起きていたが原発操業との有意性は認められないとされた。 チェルノブイリ事故より 8 年前に起きた福島第1原子力発電所 3 号炉の臨界事故。 そのほかにも何度も起きた制御棒脱落事故。 事故の隠蔽は 2007 年 3 月にようやく認められた。

これらの詩を読んで、アーサー・ビナード氏はみんなと同じく「予言だ」という。その見事な構成と描写に近づこうと英語への翻訳に励んだと。

若松氏はずっと原発事故について調べ、詩に歌っていた。

この詩を突きつけられ、知らないまま生きていた恥ずかしさと不甲斐なさ。

大切なことは書いて世に表せば年月が経っても伝えることができるという明かし。 石牟礼道子さんの水俣病について書かれた詩や文を連想した。

物事を見るには様々な角度からというのはよく言われている。そして、「のど元過ぎれば熱さを忘れる」のだ。今の世界で、日本で原子力発電所、エネルギー問題はまだ解決していない。

若松丈太朗氏は1935年岩手県生まれ。福島県南相馬市在住。2021年没。